2011 年 3 月期　第 2 四半期決算 IR 説明会（2010/10/29 開催）
質疑応答内容

Q: 今回、特別損失として事業構造改善損を計上し、現状固定化営業債権が800億円あるが、今後追加的に損失が出る可能性はあるのか。また固定化営業化債権がどのようなペースで減少していくのか、見通しについて教えてほしい。

A: 四半期毎に厳格に資産査定を行っており、追加の引当てが必要なものについては引当てを行うことを会社の方針としているため、追加損失はないと考えている。将来については環境次第であるため、現在言及することはできない。

Q: レアアースの取り組み方針は。

A: 中国以外の様々な国で再生産が始まっているため、中国以外での取り組みを進めていきたいと考えており、チャンスがあれば権益も取得したいと考えている。但し他国での生産開始までは時間がかかると考えているので、中国国内における生産形態、中国からの輸入形態についても検討を行うなど、多様な取り組みによりレアアースを確保していきたいと考えている。

Q: 今回マネージメントとしてどのようなスタンスで見通しを上方修正したのか。特に当期純利益は120億円と下期で約30億円だが、この背景は。

A: 円高の影響を織り込み売上高、売上総利益は減少させたが、営業利益は、経費が円高により減少することを織り込んだ。経常利益は、金利収支の改善、持分法投資利益の改善による。当期純利益については、来期、経常利益560億円という計画の確度を高めるために選択と集中を進めたいと考え、特別損失を見通しに織り込んだ。

Q: 機械部門について、第2四半期で黒字転換し、下期も黒字と見ているが、自動車事業の状況は。

A: 中南米の自動車事業については生産が安定し、ロシアの自動車事業についても順調に推移している。またアジアにおける自動車事業も好調に推移しているため、セグメント全体で今期中に通期で黒字となるだろう。

Q: 食料資源ビジネスの今後の展開について。

A: アジア・中南米での穀物、搾油事業や日本におけるマグロ養殖事業以外でも水産資源を確保していきたい。肥料についても現状の生産量を引き上げていきたい。

Q: 販売用不動産の販売状況、足元の状況は。

A: 分譲マンションについては初月販売率など改善を示している指標も出てきているが、依然として不動産市況は厳しい状況と認識している。

Q: 下期の社債発行計画は。

A: 新規投融資は資産の入替えを進めながら行うことを基本としているため、計画上、今期については社債は落ち切りという形としている。

Q: 営業外収支（持分法投資損益）を大幅に上方修正しているが、その要因は。また、持分法投資損益の中で一過性要因はどれくらいあるのか。

A: 持分法投資損益の改善については、鉄鋼関連会社等の事業を精査した結果を反映している。一過性の要因については、当社のバイオエタノール事業会社が同業他社と統合した際に、会計上の統合益が発生したものが 30 億円程度ある。

Q: ロシアの自動車事業の現在の状況は。また、来期の自動車事業の見通しは。

A: ロシアの自動車事業は黒字化の目処がつき、来期は収益貢献すると見ている。自動車本部全体では、来期は中南米の自動車事業が改善、加えて東南アジアでの事業が収益貢献すると見ている。

以上